

知的障害特殊学級における より豊かな交流教育の実践を求めて

A Study on Interaction Programs for Student with and without Disabilities in Special Classes

熊崎のぞみ*・坂本 裕**

KUMAZAKI Nozomi, SAKAMOTO Yutaka

I はじめに

2004年6月4日に一部改正された障害者基本法に「国及び地方公共団体は、障害のある児童及び生徒と障害のない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによって、その相互理解を促進しなければならない」といった条項が新たに付け加えられた。さらにその附帯決議のひとつとして「障害のある児童・生徒とその保護者の意思及びニーズを尊重しつつ、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒が共に育ち学ぶ教育を受けることのできる環境整備を行うこと」が付記された。

こうした動向を受け、学校教育現場においては、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒の交流教育や共同学習を更に推進しようとする動きが見られる。しかし、交流教育や共同学習の運用において、位頭義仁(1994)はその活動が漠然とした名目的なものになりがちであるとその問題点を指摘している。このような課題を解決し、障害のある児童・生徒とその保護者の意思及びニーズを尊重する交流教育を実現するために、坂本 裕(2002)は障害のある児童・生徒の日常の教育活動に交流教育を組み込むようにすべきであると、知的障害養護学校における教育実践の成果を踏まえて指摘している。

本稿においては、通常の学級との交流教育を積極的に教育課程に位置づけた教育実践を行い、障害のある児童の主体的な学校生活を実現しようとしている小学校知的障害特殊学級の取り組みの概要を紹介する。そして、その教育実践から障害のある児童・生徒とその保護者の意思及びニーズを尊重する交流教育や共同学習のあり方について検討を加える。

II 検討学級の概要

N 小学校知的障害特殊学級(通称、たんぼぼ学級)在籍

* 各務原市立那加第二小学校

** 岐阜大学教育学部障害児教育講座

児童3名(2, 3, 5年生各1名)

N 小学校は全児童数約600人の中規模校で各学年ともに3学級編成である。官公庁や商店が集中している市街地の中にある。公務員住宅が校区内にあり、転出入児童が非常に多いが、学校全体の雰囲気は落ち着いている。また、基本的な学習習慣が身につけている児童や進んであいさつをしたり黙々と掃除をしたりすることのできる児童が多い学校である。

III 交流教育の実践例

実践例1：生活単元学習『だんごやをしよう』での取り組み(4, 5月)

<概要>

春、校庭には桜の花が満開となる。そんな美しい環境の中で花見だんごを作る活動に取り組んだ。この単元では作って食べる喜びをより大きいものとなるように、まずは自分たちの分を、次に保護者の分を作って食べる活動を行った。そして、学校の先生方全員を招待してだんごを食べてもらうようにした。

教室に全校の先生方の写真に名前をみんなで書いて作った表を貼り、それを手がかりにしながら先生方への招待状を作り、手渡した。当日のだんご作りは流れ作業でできあがるようにし、だんご作りとだんごを渡す仕事を交代して行うようにした。だんごにつける味はきなこ、ごま、たれの3種類を用意したが、子どもたちは「先生、何味がいいですか?」「どうぞ」と言いながら、とてもはりきってよく働く姿が見られた。

<成果>

全校の先生方にたんぼぼ学級の授業に参加してもらえる機会は滅多にない。しかし、教師を相手にたんぼぼ学級の子どもたちもとても嬉しそうに、のびのびと関わっている姿が見られた。このやり取りの様子を見ていて、どの先生もこれまでも子どもたちによく関わってくださっていることがよく分かった。活動後の職員会でも「交流学級にとっても意味のある交流を考えたい」、「全校児

童がたんぼぼ学級を意識できる様な交流の方法を考えていくべきである」ということが話題になった。全校の教師で全校の子どもを見ていく、という学校の雰囲気を強く感じることができた。

実践例2：生活単元学習『トマトの苗をプレゼントしよう』での取り組み(5月)

<概要>

1学期の畑の活動は、ジュースメーカーより頂いた96苗のトマトの苗『凜々子(りりこ)』から始まった。かわいい名前がついていることもあり、「りり子のために」を合言葉に、草取りや肥料やり、支柱立てなどに精一杯取り組むことにした。しかし、たんぼぼ学級で1人10苗ずつを育て、更に家でも育てることにしても、60苗も残った。たんぼぼ学級の子どもたちにどうしたらいいかを尋ねると「先生や友達にあげたい」というアイデアが出された。そこで、全校の学級にお知らせをして、希望する学級にプレゼントをすることにした。まずは、昼の校内テレビ放送でトマトの苗を見せながら「おいしいトマトを育てませんか？」と全校にお知らせをした。そして、申し込み書をつけた手紙を作り、たんぼぼ学級の子どもたちが各クラスにもお知らせに回った。たんぼぼ学級の子どもたちは最初のうちは話したい気持ちが十分にあっても、大勢の前で話すことには緊張してしまっていた。しかし、クラス回りを重ねる中で、次第にお知らせをはっきりと話すことができるようになってきた。さらに、各クラスから出てくる質問にも上手に答えられるようになった。

苗を各クラスにプレゼントした後も、たんぼぼ学級のトマトの様子を知らせるために写真を撮って記録した『りり子日記』を作り廊下に掲示した。その壁新聞を見た通常の学級の子どもの中から、自分の学級のトマトの様子や実がなることが楽しみであることなどの話がたんぼぼ学級の子どもたちになされることもあった。そして、赤く実ったトマトが収穫できるようになった7月には、たんぼぼ学級のこれまでの畑の取り組みをまとめたビデオを昼の校内テレビ放送で放映した。その放送の後、通常の学級の子どもが壁新聞を見に来てくれたり、「放送、上手だったね」と言いに来てくれたりした。

そして、まとまった数のトマトが収穫できた頃、学級で『りり子パーティー』を行った。トマトをそのまま食べることが苦手な子も、トマトソースにしてパスタにかけることで、たんぼぼ学級全員が笑顔で味わうことができた。

<成果>

放送室で話をしたり、大勢の子どもたちの前で話をしたりすることは、たんぼぼ学級の子どもたちにとってもよい活動となった。さらに、一方的に話をするだけでなく、やりとりとしての経験をすることができたり、伝えたいことの意味がもっと詳しく分かったりすることができた。また、通常の学級の子どもたちにたんぼぼ学級の子どもたちが取り組んでいる学習を知らせ、その頑張りを理解してもらえる良いきっかけともなった。

実践例3：特別活動『みんなで遊ぼう集会』での取り組み(6月)

<概要>

6月に児童会行事『みんなで遊ぼう集会』として、各学級で遊びのコーナーを準備して全校で遊び合う活動が行われた。たんぼぼ学級はペットボトルやビニール袋を使った魚釣り『ドキドキつりつりゲーム』を準備した。各学級とも昼の校内テレビ放送で、それぞれの遊びの説明と宣伝を行い、当日を迎えた。たんぼぼ学級のゲームも大繁盛で、3人の子どもたちはスタンプ係、時計係、説明係に分かれ、自分の仕事を一生懸命に取り組んだ。

しかし、この集会後に釣れた魚の数の記録表を見ると、意外に遊びに来た子どもの人数が少ないことが分かった。また、後日教室に遊びに来た通常の学級の子どもたちから、「もっと遊びたかった!」「時間がなくて遊べなかった!」ということばも聞かれた。そこで、たんぼぼ学級の子どもたちと相談して、今度はたくさんの友達に十分に遊んでもらえるように、昼の校内放送で「年組さん、昼休みにドキドキつりつりゲームをしに来て下さい」とお知らせし、学級毎に招待することにした。1学期残りのほぼ毎日、昼休みになると同時にたくさんの友達が遊びに来るといった日々が続いた。

<成果>

児童会行事に関わって行うことができた交流活動であった。毎日、招待の校内放送していく中で、「早くうちのクラスの番にならないかなあ」と言いに来てくれたり、手紙をくれたりする子どもたちが出てきた(資料1)。たんぼぼ学級の子どもたちは、たくさんの友達が来てくれることがやはり嬉しいようで、一緒に遊んだり側に居たりする姿が多く見られた。また、校内放送でのお知らせに、とても意欲的で、自分たちの役割であるという自覚を持ち、お知らせの準備を進めたり、自分で考えたメッセージを言ったりすることができるようになった。毎日の活動として取り組めたことが、こうした子どもたちの自発的な姿に結びついたものと考えられる。

この間はトマトをありがとう。4年生の畑ですくすく育っています。ドキドキつりつりゲームにしようたいしてくれてありがとう。また、遊びに行ってもいいですか。その日をまっています。

資料1 通常の学級の児童からの手紙(1)

実践例4：日常生活の指導『たんぼぼ給食』での取り組み(7月～)

<概要>

給食の時間はこれまでたんぼぼ学級の子どもたちが交流学級に出向くようにしていた。その中で、友達と同じように準備をしたり一緒に給食当番をしたりして、多くの友達の中で過ごすことができ、たんぼぼ学級の子どもにとっては大切な活動のひとつであった。しかし、たんぼぼ学級の子どもたちにはもっと時間をかけて食器の取り扱いや食べ方などの基本的な所作をもっと身につけてほしいとの思いもあった。また、『みんなで遊ぼう集会』とそれに続く一連の活動を通して、たんぼぼ学級の空間で同じ活動で過ごすことが子どもたちに与える影響の大きさを感じていた。そこで、給食の時間に毎日通常の学級の子どもたちをたんぼぼ学級に招待したらどうかと考え、全校に提案をして7月より『たんぼぼ給食』を始めることにした。

毎回「失礼しまーす」と招待した子どもたち5人程度が、給食を持ってたんぼぼ学級にやってくる。Iさんが座ってもらう席を示す。たんぼぼ学級の日直の掛け声に合わせて「いただきます!」。Rさんが「ねえ、たんぼぼの子の名前を知ってる?」。Kさんは「みんな、今日が残っています。たくさんおかわりしてください」等々。そうして、自己紹介をしたり兄弟の話をしたりと段々盛り上がってくることもしばしばであった。そして、教室の掲示物や飼育している金魚も話題になることが多かった。

<成果>

毎日の活動の中で、たんぼぼ学級の子どもたちは自己紹介がすっかり上手になり、Rさんは教師の紹介までしてくれるようになった。IさんやRさんは友達の兄弟が自分の兄弟のいる同じ学年や学級の子どもたちの時にはとくに嬉しそうであった。また、たんぼぼ学級の掲示に書かれている子どもたちの誕生日や好きなものを見て、自分と比較する子がとても多く、そこから話題が広がることもあった。たんぼぼ学級の教室にいるからこそ、たんぼぼ学級はどんな学級でどんな友達が学んでいるのかに意識が向くのだと強く感じた。

実践例5：生活単元学習『さつまいもパーティーをしよう』での取り組み(11月)

<概要>

11月になりさつまいもの収穫時期を迎えた。この時期は芋ほりやお菓子作りなどの楽しい活動が連続する毎日ともなる。そんな中、これまでに通常の学級の子どもたちや先生と一緒に取り組む活動を沢山経験してきたたんぼぼ学級の子どもたちから「さつまいもパーティーをしたい」「みんなで作ったおにまん(さつまいもを使った饅頭)をプレゼントしたい」という思いが出された。

そこで最初に、さつまいもパーティーの準備として自分たちで集めた落ち葉を染め込んだ布を使ったおそろいのエプロンを作り、気分を盛り上げた。また、招待した人たちに楽しんでもらえるゲームとして、教室の中を見れば答えが分かるような『たんぼぼクイズ』を作った。そして、パーティーの見通しがついたところで、昼の校内テレビ放送で、収穫したばかりのさつまいもを見せて、おにまんプレゼントとさつまいもパーティーのお知らせを行った。

おにまん作りはみんなで作り方を書いて模造紙にまとめ、困った時には自分で確認できるようにした。そして、みんなにプレゼントするおにまんの総数とそれを作る日にちを表にまとめた。調理の時には、まず最初にどの学級にプレゼントするかを確認して、「がんばるぞーオーッ!」のかけ声で作業に取り掛かるようにした。全校640人にプレゼントするためには、1回で作り上げる量が100個前後となる。しかし、途中でもうやりたくない、と言う子は1人もおらず、最後までやりきっていく姿を見せた。できあがったおにまんは給食の時間に各教室へ届けに行った。その時に、昼休みにたんぼぼに遊びに来て欲しいことも伝えた。また、今回は3人そろって18学級を回ったので、その案内も後半は教師は側で見ているだけ、Iさんは大きな声で、Rさんはアドリブを交えたあいさつで、Kさんは相手に合わせて話し方や内容をちゃんと変えて伝えることができるようになった。そして、おにまんをプレゼントした学級にその日の昼休みにたんぼぼ学級に遊びに来てもらった。たんぼぼ学級の子どもたちは給食の片付けを急いで、衣装のエプロンとバンダナを身につけて今か今かと待ち構えた。今回のために作った『たんぼぼクイズ』の問題は教室のあちこちに貼ってあり、遊びに来た子どもたちは解答用紙を持って教室の中を探して回った。昼休みの終わりには、たんぼぼ学級の子どもたちが覚えた「ひょっこりひょうたん島」の手話を披露し、みんなで歌ったり一緒に手話をしたりして楽しんだ。そして、おにまんのレシピをプレゼントし

てお終いとしました。

また、交流学級は『さつまいもパーティー』にも招待した。友達が勢いよく見守る中で、「みなさん、最後まで楽しんでいてください」と言う司会のKさん、クイズでは自分の問題を大きな声で読み上げたIさん、友達の動きを見てしっかりゲームを仕切るRさんの姿が毎回みられた。みんなで輪になっておにまんを一緒に食べた後には、インタビュータイムとし、「今日のさつまいもパーティーはどうでしたか?」の問いかけに多数の挙手、そして、歌のこと、クイズのこと、おにまんのことなどについて何がよかったか、嬉しかったかをたくさん話してくれた。

全校の友達と先生におにまんを配り、さつまいもパーティーが終了した後、昼の校内テレビ放送でたんぼぼクイズに全問正解した人数を発表し、遊びに来てくれたお礼を伝えた。

<成果>

今回作ったおにまんの合計は約640個であったが、だれも途中で投げ出さないでやりきることができた。このことは、これまで積み重ねてきた通常の学級の子どもたちや先生方との生活経験の中から、たんぼぼ学級の子どもたちは自分たちへの期待感を感じ、その期待に応えるために今何のために頑張るのかということがよく分かっているからだと考える。

また、おにまんを学校全員分作ったことで、たんぼぼ学級の子どもたちの頑張りを強く感じた通常の学級の子どもたちや教師もきっと多かったに違いない。

そして、昼休みには1学期の魚釣りゲームの時よりも多くの子どもたちが来てくれ、どの子どもも自然に教室に入って楽しんでた。たんぼぼ学級の子どもたちの名前を呼んでクイズのことを聞く姿、温かい拍手やあいさつなど、とても自然に関わってきていると感じた。交流学級との『さつまいもパーティー』でも、初めは不安げに私の顔を見つめていたIさん、Rさんも友達に向かって伝えたいことを一生懸命話すようになり、プログラムを進行するだけでなく、自分が話をする時には、みんなに聞いて欲しいという思いも表れてきた。友達に教えてあげたい、喜んでもらいたいという思いがこれらの言動に表れたのだと思う。

さらに、今回は学級ごとにお礼の手紙などをまとめて、届けてくださった学級が多かった。その内容を見てみると、通常の学級の子どもたちが、たんぼぼ学級の取り組みに対して、関心をもち、優しい気持ちで受け止めていることが分かった(資料2)。なかでも交流学級ではない2年生からとても気持ちのこもった手紙をいただいた

(資料3) 11月までに2年生全員が『たんぼぼ給食』に来てくれており、2年生の子にとってたんぼぼ学級の子どもと教師が身近な存在になっていることを強く感じた。

おいしいおにまんをありがとう。すごくおいしかったよ! 3人で全校の分のおにまんをていねいに作るのは大変だね。でも3人でがんばって作ったからとてもおいしかったよ。私も家でこのようにおいしいおにまんを作りたいです。ありがとう。

資料2 通常の学級の児童からの手紙(2)

お友だちのたんぼぼさんへ おにまんおいしかったよ。あまくて、たんぼぼさんのきもちがこもったおにまんだからかな。たんぼぼさんがうたった、ひょっこりひょうたんじまじょうずだったよ。きつといっしょうけんめいおぼえたんだね。たのしかったよ。ありがとう。

資料3 通常の学級の児童からの手紙(3)

実践例6:生活単元学習『クリスマスクッキーセットを作ろう』での取り組み(12月)

<概要>

春のだんご作りの材料はみんなで学校近くの八百屋へ買い物に出かけた。秋のおにまん作りの材料はみんなで分担をして家の人と一緒に買ってきてもらうようにし、自分で近所のスーパーへ行き、メモを見ながら買う物を見つけ、お金を支払った。保護者との連絡の中からも、こうした買い物学習の必要性を強く感じ、お金のやり取りを取り入れた活動を行いたいと考え、注文用紙作り、袋作り、カード作り、クッキー作り、包装活動、教師への配達、集金活動などのいろいろな活動が用意できるクリスマス用のクッキーセットを作り、先生方に販売するという活動を行うことにした。販売するクッキーは教師が作ったものを試食し、それぞれが自分の気に入ったものを1セット100円とした。

まず注文用紙を作って配ったが、その宛名書きにはだんご屋さん以来活用していた全校の先生方の写真がここでも役に立った。注文用紙を回収し数を数えてみると、87セットの申し込みがあった。そして、たんぼぼ学級の子どもたちの各家族のための6セットを加えて、合計93セット作るようになった。

クッキー作りではレシピを見ながら道具の用意をして、それぞれが自分のお気に入りのクッキーを作った。できあがったクッキーは流れ作業でビニール袋に詰め、モールで口をとじた。さらに、お手製のクリスマスカー

ドと一緒に、これまたお手製の袋に入れて、リボンを結んでクッキーセットとした。

販売活動では、みんなで職員室へ行き、注文用紙を見て机の上に袋を置いていった。校長先生や事務の先生には直接関わって渡すことができ、お礼のことばに3人ともとても喜んでいて。集金活動は後日の休み時間に職員室で行ったが、事前に先生方に3人の子どもの学習の状況に合わせた支払いを行っていただけるよう依頼した。集金当日、子どもたちはどの先生からいくらもらうのかを紙にまとめて、職員室に出かけた。子どもに合わせて工夫して支払いをしてくださる先生方とのやりとりの中で、お金の多い、少ない、おつりの計算など、どの子どもよくできていた。そのおかげで、どの子ども笑顔で関わりながら、集金活動を行うことができた。さらに、まだお金を頂いてない教師を見つけると「先生、お金をお願いします！」と自分から声をかける姿も見られた。

そして最後の活動として、売上金から自分たちが負担した材料代金を引いて収益金を計算した。手元に残ったお金を見て、みんなにどうしたいかを聞くと「水族館にお出かけがしたい」とのことだった。がんばってクッキーを販売したお金を使って、3学期に校外に出かけることを約束した。

< 成果 >

教師に向けた直接の活動は4月のだんごや以来であったが、今回の活動は注文を受けてのクッキー作りというこもあり、具体的な相手をより意識して取り組むことができた。好きな先生方のために、という気持ちがより一生懸命に取り組む姿につながったのだと思う。また、直接関わった集金活動の時には、ただお金を支払うのではなく、やり取りを意識して関わって下さったり、たんぼ学級の子が自分で考えることができるようにお金を用意して下さったりした。さらに、お金の計算ができたことやクッキーのお礼の言葉がけをきちんと伝えて下さった。子どもたちの嬉しい表情は忘れられないものとなった。そして、この取り組みでその期待以上に嬉しかったことは、教師からのクッキーセットの注文が多かったことであった。このことには、トマトの苗やおにまんのプレゼントなどと、全校に向けての取り組みを展開してきたことで、それぞれの教師がたんぼ学級をより身近に感じることができるようになっていたのではないかと考えられる。また、おにまんへのお礼の手紙がトマトへのお礼の手紙に比べて数段多かったことも、こうした教師の働きかけの変化が影響したことの現れであろうと思う。

IV まとめ

これまで小学校や中学校で取り組まれた交流教育や共同学習の多くは特殊学級に在籍する児童・生徒が通常の学級の授業に参加する形態が多く为学校でとられてきた(国立特殊教育総合教育研究所,2000)。その取り組みにおいては、交流学級の担任と特殊学級の担任とによる個別の指導計画に基づいた事前の授業計画を行い、その成果を上げている学校もある(坂本 裕・西 正道 2004)。しかし、その数多くの学校においては、教師間の十分な事前の打ち合わせもなく、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒が単に場の共有をしているだけにすぎない取り組みも少なくはないようである。そして、そのような場合は、障害のある児童・生徒がそのもてる力を発揮できる場とはほど遠く、交流教育や共同学習が本来意図している障害のある児童・生徒が社会経験を広げ、障害のない児童・生徒が障害のある児童・生徒を理解していく教育的営みの役を十分に果たしていない感がある。

そのような状況を打破し、これから更に推進されるであろう交流教育や共同学習が真に障害のある児童・生徒とその保護者の意思及びニーズを尊重する営みとなるためには、本稿で示した知的障害特殊学級のように、特殊学級の教育活動の場に通常の学級の児童・生徒や教師を巻き込んでいく方法も有効なものひとつに成り得るものとする。規則的でまとまりのある生活の中での実際的で具体的な活動であれば力を発揮できることの多い障害のある児童・生徒にとって、今回の実践例1『だんごやをしよう』、実践例2『トマトの苗をプレゼントしよう』、実践例5『さつまいもパーティーをしよう』のような繰り返しの多い活動であれば、自分から進んで取り組めることができ、そうした生き生きとした姿をとおして周囲の者の理解も深まるものと思われる。また、その際、実践例4『たんぼ給食』のように交流し合う人数を絞り込んだり、実践例3『みんなで遊ぼう集会』のようにその活動を日常化したりするような配慮も欠かすことができないものとする。そして、実践例6『クリスマスクッキーセットを作ろう』のように、障害のある児童・生徒の学習の広がりを補償し、確かなものとしていくための交流教育も重要な活動のひとつとなる。

交流教育や共同学習はこれまでインテグレーションのひとつの方策として、障害のある児童・生徒が障害のない児童・生徒の教育活動の中で統合していくような形態を、また、その形態に近づくことを目指す営みが多かったように思われる。しかし、斯界の潮流であるインクルージョンにおいては、障害への対応よりも、それぞれの児

童・生徒がそのもてる力を十分に発揮できる教育の場の確保が重要な課題とひとつなる。交流教育や共同学習の実践においても、これからはそのようなことを踏まえ、今回の実践例でも示したように多様な活動の場やその内容の検討を行っていくことが肝要であると考ええる。

文献

井頭義仁(1994)交流教育の意義とねらい.山口 薫(監修)精神薄弱教育実践講座15 交流教育.ニチブン.

国立特殊教育総合教育研究所(2000)知的障害特殊学級における教育課程及び指導方法に関する調査研究報告書.

坂本 裕(2002)知的障害養護学校におけるより豊かな交流教育の実践を求めて.岐阜大学教育学部教育学・心理学研究紀要,15,9-14.

坂本 裕・西 正道(2004)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(3).岐阜大学教育学部研究報告(実践研究),6,219-226.